

親なき後の暮らしについて

～知っておきたいホントのこと～

一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会

会長 小島 幸子

いつも栃木県の育成会を応援いただきありがとうございます

今日は、昨年末に栃木市で開催された第10回障害者週間記念講演の内容をお伝えします
これは、栃木市と栃木市の育成会が共催で行う事業で、私は地元栃木市の育成会の顧問も仰せつかっています

今年は、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園・事業企画部長古川慎司氏をお迎えして、タイトルにあるように「親なき後の暮らし」についてお話していただきました。私たち親は「障害のある子どもにいったいいくらお金を残せばいいのか？」

「成年後見っていつからつけたらいいの？お金がかかるんだってね」「信託って最近良く聞くけどやっていた方がいいのかな？」など経済的なことや「入所施設は定員いっぱいと聞くし、私たちの地域では障害の重い人はグループホームには入れないみたい」「新設された日中支援型グループホームもなかなか広まらないね」「コロナで練習の短期入所も難しいみたい」などどうしてもネガティブに考えがちです

古川さんは私たち親に出来ることとして「制度やしくみを学ぶ」「託せるしくみを考える」「不安かもしれませんが、お子さんと一緒に今を楽しんで欲しい。大切な時間です」とお話されました。

また、知的障害のある人は障害の程度に関わらず「体験」「経験」が大切。いろいろな体験を通じて自分の意思を表出していく。それをくみ取る支援者の技量で意思決定していく。障害のある人の笑顔は支援者の張り合いになります。と聞いて息子の施設の職員を思い出し、胸が熱くなりました。障害があってもなくても自分の人生は自分で決める！今改めて向かい合う「意思決定」の大切さ。それは素敵な笑顔が答えですと締めくくりをされました

私たち育成会は市町や県の自立支援協議会の委員をしている人が多いので今後とも地域で足りないサービスは何か？前向きに考えて会員で情報交換していき行政に声を届けたいと思っています。これをお読みになっている方も私たち育成会に入会して一緒に活動しませんか？

障害のある人の笑顔のために手をつないで歩みましょう。よろしくお願ひします